

---

# 海賊戦隊ゴーカイジャー!!絶対に笑ってはいけないのぞヒビ探偵事務所!!

ターザン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

海賊戦隊ゴーカイジャー！！絶対に笑ってはいけないのぞびび探偵事務所！！

### 【Nコード】

N3613Z

### 【作者名】

ターザン

### 【あらすじ】

海賊戦隊ゴーカイジャーがのぞびび探偵事務所で地獄の1日をすいすいす。

## プロローグ

海賊戦隊ゴーカイジャーのメンバー6人は突然ターザンに呼び出された。

ターザン「よく来たねゴーカイジャー。」

マーベラス「一体何のようだ、俺達はスーパー戦隊の大いなる力を手に入れるのに忙しいんだよ。」

ジョー「さっさと終わらせてくれないか？」

ターザン「まあまあまあ……皆さんのレンジャーキーにある仕掛けをしましてね。」

ルカ「私達のレンジャーキーに？」

ターザン「その通り、俺に逆らったらビリビリがでるようになっています。」

ゴーカイジャー「はあ!?!」

ハカセ「ちょっとそれどういう事!?!」

アイム「詳しくお聞かせください!?!」

ターザンはゴーカイジャーに指を差す。

ターザン「ズバリあなた達はこれからのぞヒビ探偵事務所で1日探

偵をやってもらいます!!」

ゴーカイジャー「はあ!?!」

鎧「い、いきなり言われても困るっすよ!?!」

ターザン「はい逆らった!?!」

ターザンは手に持っているスイッチをおす。

ビリビリビリビリ!!

鎧「うわおおおおお!?!」

ハカセ「あ、あまりの痛さに鎧の音がうらがえってる!?!」

マーベラス「おいてめえ!!こっちはもうちよいで最終回なんだぞ!!こっしてる間にもバスコに大いなる力を奪われちまう!!」

マーベラスはターザンの胸ぐらを掴む。

ターザン「そ、それは大丈夫ですほら!?!」

マーベラス「?」

ターザンが指を差す方向にはシンバルを持ちメタリックな感じのザルといかにも裕福そうな格好のどっかで見た事ある人がいた。

マーベラス「バスコか?」

バスコ「そつだよマベちゃん。」

よく見ると手錠をかけられている。

ジョー「・・・捕まったのか？」

バスコ「うん。」

ルカ「・・・本気で？」

バスコ「YES。」

ハカセ「・・・なぜ？」

バスコ「なぜでしょう？」

アトム「私達に聞かれても・・・」

鎧「とりあえず安心・・・？」

ターザン「はいレッツゴー!!--」

ゴーカイジャー「待てこらああ!!--」

・・・

なんだかんだでのぞヒビ探偵事務所に行く事になったゴーカイジャ  
ー、行き方は・・・

マーベラス「バスか!!--」

ターザン「ガレオンは私が預かってます、ちなみにこのバスに乗った瞬間1日絶対に笑ってはいけません。」

ジヨー「なんだそんな事か。」

ルカ「さっさと終わらせよう。」

ゴーカイジャーはバスに乗った。

『海賊戦隊ゴーカイジャー！！絶対に笑ってはいけないのぞヒビ探偵事務所！！』

スタート！！

## バス内にて

バス内

マーベラス「何でバスなんだ、そもそもバスなんかで世界のはざまに行けるのか？」

ターザン「大丈夫大丈夫、安心してください。」

ルカ「逆に不安なんだけど。」

そうこうしてるうちにバスが止まった。

ジョー「普通に客が乗ってくるのか。」

ハカセ「……ってあれ？」

ゴーカイジャーは目を丸くした。

????「一度バス内で話そうか。」

????「いいですよ。」

機動戦士ガンダム

アムロ

ブライト

ガンダムのアムロとブライトがバスに入ってきた。

ブライト「せっかくバスに入ったんだ、互いの意見をぶつけようじゃないか!！」

ブライトはアムロを殴りつけた。

鎧「いやいやバス内は静かにしようよ。」

アムロ「・・・殴ったね？」

ブライト「殴って何が悪い!！」

ブライトは両腕を大きく広げ勢いよく後ろを見る。

アムロ「何故うしろを?」

ルカ「さあ?」

ブライトがアムロの胸ぐらを掴む。

アムロ「やめてくださいよ、そんなにガンダムを動かしたいなら、あなたが動かせばいいでしょう!？」

ブライトは再びアムロを殴りつけた。

マーベラス「なんだよあのセリフ言つのかよ。」

ジョー「わけがわからん。」

アムロはブライトを睨みつける。

アムロ「二度もぶつた・・・親父にもぶたれちやこちよ  
」 × \* !

ルカ「ぶぶつ!?!」

ハカセ「うははは!?!大事なところ噛んだ!?!」

すると

『ルカ、ハカセ、out!?!』

ルカ「えっ!?!」

ハカセ「な、何!?!」

するとバスがいきなり止まるとゴセイレッドがバスに入ってきた。

ハカセ「ゴセイレッド!?!」

ルカ「つてきやあああ!?!」

ルカのレンジャーキーが電気を発した。

マーベラス「お、おい・・・」

ハカセ「ちよつ、何!?!」

ハカセは四つん這いにされゴセイレッドがバットでハカセのケツを叩いた。

ハカセ「ぬああ!?!」

ゴセイレッドは平然と帰って行った。

ジョー「こ、これは・・・」

ターザン「笑ったら男はケツバット、女は電気ショックなんで。」

ゴーカイジャーは全員鳥肌が立った。

後々お互いをつぶし合う事は言うまでもない。アムロ達は何事もなかったように立ち去った。

・・・

開始15分

再びバスが止まった。

マーベラス「な・・・」

???「いやあ、今回もバッジゲットだぜ!!」

ポケットモンスター

サトシ

サトシがバスに入ってきた。

もちろんパートナーのピカチュウもいるはずだが

サトシ「良かったな。ピカチュウ!!」

ピカチュウ? 「ビッグガッチュウウ。」

全身に黄色いペンキをねったくった中年の男だった。

アイム「うっ……」

鎧「ぶはははは！？」

『鎧、out』

次にバス内に入ってきたのは

スパイダーマン「鉄十字キラー！！スパイダーマン！！」

鎧「スパイダーマン！？」

スパイダーマンはゴムでできたバットで鎧のケツを叩く。

鎧「ぎゃあ！？」

……

ゴークイジャーは既につかれはじめていた。

ルカ「でもマーベラスやジョーにアイム、ずるくない？」

マーベラス「笑ってないんだから仕方ないだろう。」

そしてついに始まってしまった。

ハカセ「はぁ……」

アイム「どうしたのですか？ハカセさん。」

ハカセ「・・・布団がふつとんだ。」

マーベラス「・・・」

ジョー「・・・」

アイム「・・・」

ハカセ「・・・ぶつ！！」

『ハカセ、out』

マーベラス「自滅してんじゃねえか。」

再びゴセイレッド参上。

ハカセ「ちよつとダメだつて、ぎゃあ!？」

ジョー「ふつ・・・バカな奴だ。」

ルカ「ていうかジョー、今鼻で笑ったでしょ？」

ジョー「は？」

『ジョー、out』

ジョー「ち、ちよつと待て!!今のは笑いじゃ・・・」

「????」よお!?!」

ドラベース

シロえもん

ジヨー「ま、待て!?!野球選手は……」

シロ「問答無用おお!?!」

シロえもんが全力でジヨーのケツをケツバットで叩く。

ジヨー「ぐあああ!?!」

シロえもんは去っていった。

ジヨー「つ、つぶし合いが始まるとは。」

ターザン「あと10分くらいで到着です。」

マーベラス「長いか長くないかわかんねえなあ。」

アイム「そうです……」

アイムがふと外に目をやると

アイム「あははははは!?!」

マーベラス「どした?アイ……」



アイム「さ、三輪車あははははは！？」

鎧「ぐははははは！？」

『全員、out』

するとバスが止まり入ってきたのは

「5人揃ってゴレンジャー！！」

偉大なる先輩ゴレンジャーだった。

ゴレンジャー「タイヤ！！」

アカ、アオ、ミドはマーベラス、ジョー、ハカセにケツバット、モモ、キはスイッチを押してルカとアイムに電気ショック。  
ゴレンジャーは去っていった。

マーベラス「く、くそお……いてえ……」

鎧「あ、俺助かった。」

ジョー「……」

シロえもん「うりゃあああ！！！」

鎧「何故シロえもん！？ぎゃあああ！？」

何故かシロえもんが現れ鎧にケツバット。

ルカ「助かるわけないでしょ？（怒）」

ターザン「みなさん、着きますよ。」

マーベラス「よ、ようやく終わった・・・」

しかし、これからが地獄の始まりだった。

つづく

## バス内にて（後書き）

最近今更ながら著作権を気にするようになったターザンでした。

## 探偵事務所内にて

ゴークイジャー一同はついにのぞび探偵事務所に到着した。

ターザン「ええみなさん、ここがのぞび探偵事務所です。」

ルカ「一回来たから知ってる。」

ターザン「では中へ入りましょう。」

ターザンは事務所の入り口でパスワードを入力した。

『声帯検査です。』

ターザン「オンドウルラギツタンディスカアア!!」

ジヨー「おいおい。」

『声帯検査、一致しません。』

ハカセ「ぶふっ!?!」

『ハカセ、out』

マーベラス「なに笑ってんだ。」

ハカセ「だってあんな全力で叫んでおいて検査にひっかかるって・・・」

次に出てきたのは

mother

ネス

ネス「やあ!!」

ネスは持参のバットでハカセのケツを叩く。

ハカセ「ぎゃああ!?!」

アトム「それにしてもおしりが痛いです。」

鎧「このままじゃ1日もちません(汗)」

なんとか扉を開け中に入るゴークイジャー一同。

ターザン「まずは所長に会いに行きます。」

ジョー「よく見たら改築してるな。」

二階

ターザン「所長、ゴークイジャーを連れてきました。」

????「ご苦労様。」

所長

ダークドリーム

ルカ（所長になってたんだ。）

ダークドリーム「お久しぶりねゴークカイジャー、早速だけどあなた達のコードネームを決めるわ。」

アイム「コードネームですか？」

ダークドリーム「じゃああなたから。」

ダークドリームは鎧を指差す。

鎧「俺ですか？」

ダークドリーム「そうよ、そうねえ・・・あなたは『オタク』。」

鎧「オ、オタク？」

ダークドリーム「次あなた。」

ダークドリームはアイムを指差す。

ダークドリーム「あなたは・・・『ヒメチャン』。」

アイム「なんだか懐かしいですね。」

ダークドリーム「次あなた。」

ダークドリームはハカセを指差す。

ダークドリーム「あなたは『ハカセ』。」

ルカ、マーベラス「・・・ぶふっ!？」

『ルカ、マーベラス、out』

ルカ「まんまじゃん!？きやあ!？」

マーベラス「なっ、お前は!？」

現れたのは星飛雄馬

飛雄馬「だあああ!！」

マーベラス「ぎやあああ!？」

星飛雄馬は持参のバットでマーベラスのケツを叩く。  
ルカは電気ショックでしびれる。

ダークドリーム「次あなた。」

ジョー「(『無愛想』)とかなだろ。」

ダークドリーム「『アタックNo.1』。」

鎧「ぶふっ!？」

『鎧、out』

現れたのは



ダークドリーム「『マベちゃん』。」

マーベラス「他よりましか。」

ターザン「チッ」

鎧（今舌打ちした！？）

そしてゴーカイジャー一同は控え室に行く。  
その途中

ターザン「あ、のぞヒビ久しぶり〜。」

夢原のぞみ

北条響

のぞみ「ターザンさんお久しぶりです！！」

響「ああ！！ゴーカイジャーだ！！」

マーベラス「よう。」

のぞみ「そうそうこれあげます。」

のぞみは突然飴の入ったプラスチックの容器を渡す。

マーベラス「お、ありがて・・・にゃあああああああああ  
！？。」

蓋を開けようとした時マーベラスは二回くらい声を裏返して絶叫し

た。

鎧「うははははは！？にゃあってうははははは！？」

アイム「あははははは！？」

『鎧、アイム、out』

シロえもん「どりゃああ！！！」

鎧「またかぎゃあ！？」

アイム「きゃあ！！ビリビリイイ！？」

ジョー「マーベラス、まさかビリビリがきたか？」

マーベラス「あ、ああ・・・」

のぞみと響は全速力で逃げて行った。

.....

ターザン「みなさん、お疲れさまです、まだけっこう時間があるのでそれまで控え室でお休みください。」

ターザンはゴーカイジャーを控え室に入れ出て行く。ゴーカイジャー一同はそれぞれの席につき机にうなだれる。

ハカセ「やっと休めるねえ。」

ルカ「まったく・・・椅子に座るのもやっただわ。」

ふと鎧は机に目をやる。

鎧「そついえはひきだしの中何が入ってますかね？」

つづく

探偵事務所内にて（後書き）

次回、恒例のひきだし！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3613z/>

---

海賊戦隊ゴーカイジャー!!絶対に笑ってはいけないのぞヒビ探偵事務所!!

2011年12月14日16時45分発行